

本文

- ① 今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。（『竹取物語』）
- ② ほととぎす鳴きつる方をながむればただ有明の月ぞ残れる（『千載和歌集』）
- ③ 月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。（『おくのほそ道』）
- ④ 名を聞くより、やがて面影は推し量らるる心地するを、見る時はまた、かねて思ひつるままの顔したる人こそなけれ。（『徒然草』）
- ⑤ いとうつくしうてゐたり。（『竹取物語』）
- ⑥ 睦月の十日ばかりのほどに、ほかへ隠れにけり。（『伊勢物語』）
- ⑦ つひに行く道とはかねて聞きしかどきのふけふとは思はざりしを（『伊勢物語』）
- ⑧ 秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる（『古今和歌集』）
- ⑨ あづま路の道のはてよりも、なほ奥つかたに生ひ出でたる人、いかばかりかはあやしかりけむ。（『更級日記』）
- ⑩ ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。（『方丈記』）
- ⑪ おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。たけき者もつひにはほろびぬ、ひとへに風の前の塵に同じ。（『平家物語』）
- ⑫ 京には見えぬ鳥なれば、みな人見知らず。（『伊勢物語』）
- ⑬ 鳥のねどころへ行くとて、三つ四つ二つ三つなど、飛びいそぐさへあはれなり。（『枕草子』）
- ⑭ 男もすなる日記といふものを、女もしてみむとてするなり。（『土佐日記』）
- ⑮ 散ればこそいとど桜はめでたけれ憂き世になにか久しかるべき（『伊勢物語』）
- ⑯ 今宵は十五夜なりけりと思し出でて、殿上の御遊び恋しく、所々ながめたまふらむかしと思ひやりたまふにつけても、月の顔のみまもられたまふ。（『源氏物語』）

設問

- 例文①の「取りつつ」の「つつ」は助動詞「つ」ではない。これは何という語（品詞）か、答えよ。
- 例文②「鳴きつる」の「つる」について、次の問いに答えよ。
 - (1) 文法的に説明せよ（何の何形か）。
 - (2) 直後の体言「方（かた）」を修飾していることから、活用形が決まる。その活用形を答えよ。
- 例文②「鳴きつる」の「つる」の意味は、完了か強意か。答えよ。
- 例文②「鳴きつる方をながむれば」を、「つる」の意味を明確にして現代語訳せよ。
- 例文④「思ひつる」の「つる」を文法的に説明し、その意味（完了・強意の別）を答えよ。
- 例文⑤「ゐたり」の「たり」は完了の助動詞「たり」である。これと同じく「すわっていた」という状態・完了を表す。例文⑤全体を現代語訳せよ。
- 例文⑥「隠れにけり」の「に」は、完了の助動詞「ぬ」の連用形である。次の問いに答えよ。

- (1) この「に」を文法的に説明せよ（何の何形か）。
 - (2) 「隠れにけり」を現代語訳せよ。
8. 例文⑦「聞きしかど」の「しか」は過去の助動詞「き」の已然形である（下に接続助詞「ど」が続くため）。この文には完了の助動詞は用いられていない。本文中で、完了の助動詞「つ」が用いられている例文の番号をすべて挙げよ。
9. 例文⑧「秋来ぬと」の「ぬ」について、次の問いに答えよ。
- (1) この「ぬ」は完了の助動詞「ぬ」か、打消の助動詞「ず」の連体形「ぬ」か。上の「来（き）」の活用形に注目して答えよ。
 - (2) その活用形（終止形か連体形か）も答えよ。
10. 例文⑧「見えねども」の「ね」と、「おどろかれぬる」の「ぬる」を比べる。次の問いに答えよ。
- (1) 「見えねども」の「ね」は、完了の助動詞「ぬ」の命令形「ね」か、打消の助動詞「ず」の已然形「ね」か。理由とともに答えよ。
 - (2) 「おどろかれぬる」の「ぬる」を文法的に説明せよ（何の何形か）。
11. 例文⑨「奥つかた」の「つ」は、完了の助動詞「つ」ではない。古い格助詞「つ」（「～の」の意）である。では、完了の助動詞「つ」は、活用語のどの活用形に接続するか答えよ。
12. 例文⑪「つひにはほろびぬ」の「ぬ」について、文法的に説明し（何の何形か）、「ほろびぬ」を現代語訳せよ。
13. 例文⑫「見えぬ鳥」の「ぬ」は、完了の「ぬ」か、打消の「ず」の連体形「ぬ」か、いずれかを答え、その判断の理由（接続・意味）を述べよ。
14. 完了の助動詞「ぬ」と打消の助動詞「ず」（連体形「ぬ」・已然形「ね」）は形が似ていて紛らわしい。両者を見分ける最大の手がかりを、「接続（上に来る活用形）」の面から一文で説明せよ。
15. 「京には見えぬ鳥なれば」を現代語訳せよ。
16. 完了の助動詞「ぬ」は、活用語のどの活用形に接続するか答えよ。
17. 次の活用表の空欄に、助動詞「つ」の活用形を順に（未然・連用・終止・連体・已然・命令の順で）すべて書け。
18. 次の活用表の空欄に、助動詞「ぬ」の活用形を順に（未然・連用・終止・連体・已然・命令の順で）すべて書け。
19. 「花咲きなむ」という句がある。「な」は完了の助動詞「ぬ」の未然形、「む」は推量の助動詞である。このとき「なむ」は、完了ではなく別の意味になる。その意味を答え、「花咲きなむ」を現代語訳せよ。
20. 助動詞「つ・ぬ」が、後ろに推量の助動詞「む・べし」などを伴って「てむ・なむ・つべし・ぬべし」の形になると、完了ではない別の意味（用法）になる。その意味（用法）を漢字二字（「強意」）で答えよ。
21. 本文中で、完了の助動詞「ぬ」（強意を含む）が用いられている例文の番号をすべて挙げよ。
22. 例文③「百代の過客にして」の「に」は断定の助動詞「なり」の連用形であり、完了の「ぬ」の連用形「に」とは異なる。両者を見分けるには直後の語に注目する。完了の「に」の直後によく来る語を一つ挙げよ（例文⑥を参考に）。

23. 記述問題：助動詞「つ」と「ぬ」は、どちらも完了の意味を持つが、どのような動作に付きやすいかという「傾向」に違いがある。その違いを、「つ」「ぬ」それぞれについて一文ずつで説明せよ。
24. 記述問題：助動詞「つ・ぬ」が「強意（確述）」の意味になるのは、どのような語と結びついたときか。具体的な語形を二つ挙げて説明せよ。